

呉宮原高等学校 第2学年 国語科単元指導計画

1 単元名 名家の文章「売油翁」

- 2 単元の目標
- ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
 - ・古典を読んで筆者の考え方を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

3 単元の計画 (全4時間)

時	主な学習活動
1～2	句法を確認しながら文脈を把握する。疑問点を挙げて課題を設定し、課題解決の糸口を考える。 【課題】(例) 文脈は理解できたが、「売油翁」の「康肅」へのメッセージは結局何だったのだろうか。
3	【課題解決】「売油翁」「解牛」「斲輪」と「康肅」の共通点、相違点から筆者の考えを考察し、それに対する自分の意見を持つ。 → 本時
4	筆者の思想に対する自分の意見を述べる。

- 4 本時の目標
- ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
 - ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

5 学習の流れ (3時間目／全4時間)

学習活動 (○発問, ●予想される生徒の反応)	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準(観点) (評価方法)
1 全文音読		
2 本時のめあて(課題)提示	2◇【課題】「売油翁のメッセージ」を考察することが目標であることを明示。 →【課題解決】この課題を解決するために「油翁」「解牛」「斲輪」の例が何を語っているのか、また「康肅」がどうして変容したのかについて考察することを思い出させる。	
3 「売油翁」「解牛」「斲輪」と「康肅」をx軸・y軸の座標軸でそれぞれ表し、筆者の考えを考察する。 (1) ○宿題にしていた「解牛」「斲輪」の話は調べてきたか。 (2) ○x軸とy軸の観点をそれぞれ何にするか設定し、「売油翁」「解牛」「斲輪」「康肅」がどこの領域に入るか、検討してみよう。(個人で考える→グループワーク) (●x軸・・・自由自在の境地、自尊心、威張りたい気持ち、向上心など)。 y軸・・・熟練している、技術があるなど)。 (3) (○(2)について発表し、そこから「売油翁」「解牛」「斲輪」と「康肅」の例が何を語っているか、自分の考えを言おう。また、人の意見を聞いて自分はどうか考えるか、意見を発表しよう)。 (●「売油翁」「牛解」「斲輪」は熟練して自由自在の境地である。しかも、それを他者にことさら認めて欲しいとは思わない。それに対して、「康肅」は技術にこだわり、他者に認めて欲しいと思っていた。中りさえすればよしと考えていた。など)	3 (1) ◇(2)の作業のために、「解牛」「斲輪」の話の中身にはあえて触れない。 (2) ◇x軸とy軸の観点は本文に即して論拠を持ちながら自由に設定させる。 ◆作業が進みにくい場合は、(3)に行く前に「解牛」「斲輪」の趣旨をクラス全体で確認する。 ・「道」とは何かを自分の言葉で説明させる。 ・「解牛」と「斲輪」の共通点は何か、考えさせる。 ・一方、「売油翁」と「解牛」・「斲輪」の共通点は何か、また、「康肅」はどうであるかを考察させる。 (3) ◇黒板にそれぞれの意見を掲示して、x軸y軸の設定理由を説明させ、「売油翁」「解牛」「斲輪」「康肅」(忿然時)の共通点・相違点について意見交換させる。 ◆『「康肅」は他者に認めて欲しいと思っている自尊心の塊である』という観点しか言えない生徒には、「解牛」「斲輪」の趣旨や老荘思想について再度考えさせる。	3 内容を構成や展開に即して的確にとらえている。 [読む能力] (ルーブリックによる学習観察)

<p>(4) (○「売油翁」は何を伝えたかったのだろうか。それぞれノートに自分の言葉で書いてみよう。)</p> <p>(●熟練すれば、技術を超越し、自分が作為的にそうしようと思わなくても、自由自在に操れる境地になるものである。だから、目先の技術(的中など)問題ではないだろう、康肅よ。など)</p> <p>4 【パフォーマンス課題】筆者がもし科挙の試験官になったら、文章を課す試験でどのような文章を高く評価するであろうか。推測して書きなさい。</p> <p>5 まとめ・本時の振り返り</p>	<p>(4) ◇筆者の目指す境地を、「康肅」の変容に基づいてまとめさせる。「但手熟爾」と「惟手熟爾」の違いにも言及する。</p> <p>4 ◇文章家としての筆者の姿勢を本文の内容を論拠にしながら考察させる。</p>	<p>4 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。</p> <p>[読む能力] (ルーブリックによる学習観察)</p>
--	---	---

【資料】

単元のルーブリック (様式2-②準拠)

本時

観点	評価規準	I	C	E
文化と国語に関する特質	古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。	語句の意味、句法、訓読のきまり、文の構造が理解できる。	文脈に即して意味や「疑問」「詠嘆」などの用法がとらえられる。	書き手の意図や文章中の人物の心情などを、場面や状況の展開から読み取り、理解できる。
読む能力	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	文章の構成、展開を確かめ、的確に内容を読み取ることができる。	「売油翁」「解牛」「斲輪」と「康肅」の共通点と相違点を考察することができる。	「売油翁」を通して書き手がなぜこの文章を書いたのかという意図を汲み取ることができる。
	古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	書き手の思想をとらえるために必要な情報を適切に入手することができる。	書き手や登場人物の思想や感情に共感したり、違和感を持ったりして、批判的に読むことができる。	文章を批判的に読む中で自分なりの意見を述べ、想像力、心情、感性を豊かにしている。

学習活動及びパフォーマンス評価

	1 (C)	3 (B)	5 (A)	7 (AA)
「売油翁」「解牛」「斲輪」と「康肅」をx軸とy軸でそれぞれ表し、共通点と相違点から筆者の考えを考察する。(学習活動3(2)(3)(4))	x軸y軸を、十分本文に即さないまま設定している。	「売油翁」「解牛」「斲輪」「康肅」の共通点と相違点を見出し、それを根拠として、x軸y軸を適切に設定することができる。	適切に座標軸を設定し、「売油翁」「解牛」「斲輪」「康肅」の話から、筆者がなぜこの文章を書いたのかという意図を読み取って、自分の言葉で説明することができる。	適切に座標軸を設定して筆者の意図を自分の言葉で説明し、さらに、「康肅」に語りかける形で「売油翁のメッセージ」を書くことができる。
筆者がもし科挙の試験官になったら、文章を課す試験でどのような文章を高く評価するか、推測する。(学習活動4)	筆者の意図を根拠とすることなく、自分の考えを述べている。	筆者の意図を根拠として、筆者ならどのような文章を高く評価するか、推測している。	筆者の意図を根拠として、筆者ならどのような文章を高く評価するか推測し、その評価に対して、自分はどのように考えるか、批判的に考えることができる。	筆者の意図を根拠として、どのような文章を高く評価するか推測し、「書くこと」のみならず、「芸術」やそのほかの分野に広げてものごとに対する自分なりの姿勢や理念を述べることができる。